

Departure Oral Communication I 教科書で伸ばす「言語生活力」



岡本芳朗

「言語生活力」とは中教審の国語専門部会で話題になっているもので、簡単に言うと「具体的に様々な言語生活場面を学校生活での言葉の教育に持ち込んで育成する力」である。こうした場面を作り出すのは、国語の授業もさることながら、英語の授業、特に OC の授業はピッタリだ。

外国人宿泊客の多いホテルでは、客室案内や荷物の取り扱いをする bell はホテル内の施設・サービスについて、また concierge はホテル周辺の名所・交通手段についての情報まで熟知し、それを英語でわかりやすく伝える力が要求される。したがって、彼らは就職後にそのための特別なトレーニングを受ける。高校生は、その多くが社会人予備軍で、ホテルのみならず多種多様な職種につく可能性がある。したがって、OC の授業に求められるのは、様々な分野や場面で英語を使用することを視野に入れた、将来の特別なトレーニングに耐えうる基礎的な「言語生活力」の育成であろう。そんな要求に応えられる教科書 *Departure* の様々な工夫をご紹介します。

●真面目で高品質な教科書

Departure は多角的に様々な観点から編集された真面目な教科書。いわゆる優等生的な教科書であろう。教科書という性格上、誰が扱っても一定レベルの授業内容が維持できるものでなければならない。したがって、しっかりとした高品質なものでなければならない。当然、題材があまりに偏ったものは好ましいとは言えない。

Departure では様々な「言語生活力」の育成が

図れるように、16 の Lesson が用意されている。これは、OC の教科書の中ではかなり数が多い部類に入る。そして、授業者が扱いやすいように、整った構成がなされている。全体は Unit 1～4 の 4 部構成になっており、各 Unit には 4 つの Lesson がある。そして、各 Lesson は、以下の順に 4 ページで構成されている。すなわち、 $4 \times 4 \times 4$ というわかりやすい構成だ。さらに、単なるワークブックとは一味違う『学習ノート』をはじめ、充実した副教材をこれに組み合わせれば、至れり尽くせりである。

1. Get Ready——無理なくテーマを導入

Lesson の最初のページでは生徒のスキーマを活性化し、それぞれのテーマへ無理なく入ることができる。アプローチにはいくつかのパターンがあるが、基本的には音声を伴ったビジュアル的な活動が中心となっている。また、各 Lesson とも、低いけれども「ちょっとした発見」というハードルを設けている。



2. Listen & Speak——Input から Output へ

2 ページ目では、Listening による英語の In-

put と、それを利用した Output の活動を行う。後者については、生徒の英語力に応じて、授業者が目標とする英語のレベルを様々な設定できる。発展的な活動も含め、展開の詳細については TM に紹介がある。

3. Dialog——身近な場面で「言語生活力」アップ

3 ページ目の Dialog の Go! には連続したストーリーがある。その展開は、Unit 1 では大半が日本の高校を舞台に留学生と日本人高校生との間での異文化理解を、Unit 2 は舞台は日本だが、道案内や買い物など学校外の場所での英語による会話を設定している。そして、Unit 3 では日本人高校生が留学先のアメリカで経験する習慣などの違いを、最終の Unit 4 では舞台を再び日本に戻し、電子メールやルーツをたどれば外国のものだった日本の習慣なども取り上げている。

Unit 3 の留学に關しては、やや現実性が薄い。

かもしれないが、
 高校生の留学が増えている現状もあり、いずれのレッスンも「言語生活力」の育成にとっても役立つもので、授業を通して生徒は無理なくその力をつけるには
 ずである。

Dialog

Line	Text
166	R: (男) のよらこども二人は留学に思ふ事がある。『おれらの』にならなうか？
167	H: おれ達について話せるなら『おれ』のお母さんに電話して知するものさ。(1)-(4)について(4)について(4)の回答に達して聞く、辞書で調べる。
168	
169	

(1) a. right b. as c. hope (2) a. to b. again (3) a. right b. called c. has d. brought e. taught

(2) R: What's Haraway? 私の友達のフットを名刺。少費までおつちへ行くから、彼女と電話して。→ 名刺の、何種類か見せよう。
H: Haraway Is Like

H: Would you like some more soup, Rika?
R: Yes, but () a little, please.
H: Here go.
R: Thank you, Mr. Haraway... Oh, I'm ()
 That was a wonderful dinner.
H: Thank you, Now, () would you like to have for dessert? I have chocolate ice cream, apple pie and pudding.
R: Oh, I would like some apple pie.
H: Would you like something to drink, too?
R: Something (), like iced tea, please.

(3) 下線部に入っている単語を入れて、何種類か見せよう。
A: What would you like to have for dessert?
B: I would like some apple pie.
A: Would you like something to drink?
B: Something cold, like iced tea, please.



Linden Publishing
www.lindenpublishing.com

Listen & Speak

Unit 10

Page 1

Listen to the audio at the menu of the Restaurant BIG STAR. Listen to the English expressions (1) – (5). Write (1) – (5) for those that are correct and (F) (False) for those that are not.



(1) (2) (3) (4) (5)

a) Referring to the above menu, complete the dialog below. Next, make notes, infer the underlined parts with words of your own, and practice the dialog.

Server: Are you ready to order?

Customer: Um... What's Today's Special Lunch?

Server: _____

Customer: OK. I'll like to have that.

Server: Anything to drink?

Customer: _____ please.

4. Task と Function——ステップアップと確認

4 ページ目の Task の活動に關しては、各 Lesson と前ページの Dialog を参考にすれば、最低限の活動はできる。しかし、「言語生活力」のさらなるステップアップを図りたい場合は、授業者のアイデア次第でかなり高度な活動に発展させることも可能である。

授業者の腕の見せ所と言えるかもしれない。もちろん、TM にも発展的活動の具体例は紹介されている。そして、Function では、機能面から各 Lesson で押さえるべき表現を再確認することになる。

●日本人教師にも便利な ALT 用テキスト

Departure

には打ち合わせや授業でALTが利用する目的で作成されたALT用のテキスト (Departure OC I For ALT) がある。実は、これは日本人教師がオールイングリッシュで授業を展開するのに非常に役に立つのだ。

また、前述の『学習ノート』については、予・復習のみならず、「授業中にその授業内容を形に残す」という意図で用意されたもので、利用してみるとその便利さがよくわかるはずである。

(おかもと よしろう・岡山県立岡山芳泉高等学校教諭)

[illegible]

Dialog

1
 1st
 2nd
 3rd

「ホー」のうしろに上声がついて2回繰り返します。「ホー」からつづいてめめめかきこえてくる音で覚えるから、「ホー」の音を音程にのせて覚えるようにして、「ホー」の音に上声がついて、2回繰り返して覚える。

2
 1st
 2nd
 3rd

(1) a. ogit (2) a. hagle (3) a. hogg (4) a. ogagt
 b. agitied b. hagit b. haggies b. ogaght

3
 1st
 2nd
 3rd

◎ 夏目漱石 *Heartway* 先生のアパートを訪れ、夕食をこしらえてくださった。英文を聞いてみる。◎ 例題、知識を定めてみよう。

Mr. Heartway talks like

4
 1st
 2nd
 3rd

Here you go.
 かしこまりました。

5
 1st
 2nd
 3rd

H: Would you like some more soup, Rika?
R: Yes, but () a little, please.
H: Here you go.
R: Thank you, Ms. Heartway.... Oh, I'm ().
That was a wonderful dinner.
H: Thank you. Now, () would you like to have for dessert? I have chocolate ice cream, apple pie and pudding.
R: Oh, I would like some apple pie.
H: Would you like something to drink, too?
R: Something (), like iced tea, please.

6
 1st
 2nd
 3rd

下線部分のうしろに半音を入れて、例文を定めてみる。

a: What would you like to have for dessert?
b: I would like some apple pie.
a: Would you like something to drink?
b: Something cold, like iced tea, please.

Listens & Speak

● レストランで注文するメニューの英文を教材(1)～(3)の英文を見ながら、
右に合った正しいTTR(Tone)を確認して正しく発音を書き入れてください。

* expressive

(audio 12)

Big Steak
Recitables

Omelette	\$ 2.45	Mixed Water	\$ 1.30
Fried Chicken	\$ 5.50	Cheese Tost	\$ 4.00
Spaghetti	\$ 6.00	Iced Tea	\$ 1.00
Fried Fish	\$ 4.00	Coke	\$ 0.50
Jelly St.	\$ 6.00		
Rice	\$ 1.30		

\$1.000

(1) _____ (2) _____ (3) _____ (4) _____ (5) _____

● レストランで食事をした後、次の会話を見ながら練習しよう。日本語
と英語の両方にふくまぬ語句を入れて、何回か練習しよう。

Server: Are you ready to order?

Customer: Um... What's Today's Special Lunch? *

Server: _____

Customer: Oh, I'd like to have that.

Server: Anything to drink?

Customer: _____ please.

What's Delicious! Page 35